第3課　依頼と質問

1．この課のねらい

(1) 外出先で、体の具合が悪くなったり、道に迷ったりしたとき、人に助けを求めることができるようにする。

(2) お礼の言葉がきちんと言えるようにする。

(3) 相手の言葉が分からなかったり、日本語でどう言ったらいいか分からないとき、質問をして、なんとか教えてもらうことができるようなやり方を身に付けさせる。

(4) 教科書 (P.44～P.46) の「緊急用表現集」が活用できるように練習する。(複写してそれぞれに持たせ実際にやってみる。)

2．学習項目とその扱い方

〔会話― 1.〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○すみません。　助けてください。(1) ○日本語が　できません。(テキストを見せながら) 見てください。(3)	○どうしたんですか。(2)

(2) 準備

①教科書 (P.44) に、自分の名前、連絡先などを、家族や生活指導員に頼んで、記入してもらうように前もって指示をしておく。(指示の言葉は、「指示表現集」(P.157参照) にある。)授業中には、教科書 (P.44) を使って練習するが、実際に学習者が教室外で緊急の際に使うことを考えると、教科書 (P.44) をコピーするか、別の紙に書くなりして常に携帯させるようにしておく。

②もしできれば健康診断書を見たり、指導員に聞くなりして既往症や血液型なども記入して、一人一人の学習者の情報を書き込んだものを学習者に持たせておくとなおよい。

(3) 導入

今までと同様にテープを聞かせて学習者がどのくらい理解しているか確かめる。

(4) 練習

①会話本文を繰り返し練習する。大きな声で練習させることが大切である。学習者の一人に教授者の役をさせ、教授者は学習者の席について「助けてください」と発話をし、モデルを示すのもよい方法である。もし、学習者がこれに反応して「どうしたんですか」あるいはこれに近いことが言えたら、「日本語ができません。見てください」と言って自分の緊急連絡用のメモを見せる。こうして、モデルを示した後で、次に、もう一人の学習者にこれに倣って言わせるようにすると、スムーズに練習に入ることができる。

②場面練習は、(準備で)作っておいた学習者個人別の名前、連絡先などを書いた紙(教科書の関連表現にある形のもの)を使って行う。その後、「緊急用表現集」の「どうしましたか」「どこが痛いですか」「電話をしましょうか」などの表現を指さして、その返事を学習者に左側から選ばせる練習をする。

〔会話―2〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○ここへ　電話してください。(3) ○はい、そうです。(5)	○１３６　７８９１ですね。(4)

(2) 準備

〔会話―1〕と同様に、緊急連絡用のメモを用意する。自分の家(あるいは同居先)や生活指導員などの電話番号、そのほか学習者が知っていると思われる電話番号を前もって調べて用意しておく。

(3) 導入

〔会話―1〕と同様に行う。

(4) 練習

①学習者ののみ込みが早ければ、自分で自分の家や指導員の電話番号が言えるように練習をしてもよい。その場合には、〔会話―2〕の林さんと通行人のパートを交替して練習してもよい。電話番号については、普通の数字と読み方が違うこと、特に「0」が、「ゼロ」「まる」「レイ」などと読むことに注意したい。

練習例（教授者と学習者、あるいは学習者同士で練習する）

Ａ：うちの電話番号は、３５１　５５９４です。

Ｂ：３５１　５５９４ですね。自宅ですか。

Ａ：｛はい、そうです。
　　｛いいえ、呼び出しです。（○○方です）

②その後で、〔３．表現練習〕を行う。そのときは、学習者にテープについて繰り返させるか、教授者が発話してそれを繰り返させる練習をする。練習を始める前に、〔３．表現練習〕の中国語の指示を読ませてもよい。キューの「教えます」「起きます」などの意味は、第２課までの学習と、第３課の予習が十分に行われていれば理解できるはずであるが、学習者の理解が不十分であれば、第２課の〔２．表現練習ａ〕を参照して、中国語訳のカードを作っておいて見せるとよい。

〔会話―３〕

(1)　学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○ほんとうに、ありがとうございました。(3)	
重要項目		○いいえ、どういたしまして。(2)

(2)　準備

①〔会話―１〕か〔会話―２〕の後に、〔会話―３〕のお礼の表現を入れたテープとその応用会話のテープを作る。

②この会話が使えるような他の場面（荷物持ち、かさに入れてあげるなど）を考えておく。

(3)　導入

会話本文のテープを聞かせて繰り返させたり、教授者の発話の後に付いて繰り返させる。

(4)　練習

動作や表情に気を付けて練習する。会話本文がなめらかに言えるようになったら〔会話―１〕あるいは〔会話―２〕の後に続けて練習する。また、応用会話の場面や準備しておいた場面を用いて場面練習をする。

〔会話―４〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○あのう、ちょっと　教えてください。(1) ○これは、日本語で　何と　言いますか。(3)	○コップです。(6)
重要項目		○どうぞ。(2) ○テーブルと　言います。(4)

(2) 準備

①本、鉛筆、ボールペンなど日常生活で使うものを用意しておく。

②「これ・それ・あれ」を教えるときは、実際の場面を用い、話題のものと、話し手・聞き手との距離を分からせる必要があるので、教室作業の場合は学習者の机を半円形あるいはコの字形に並べ、お互いの顔や動作が分かるようにしておくとよい。また、教授者が動き回れるスペースもできるだけ大きく取っておく。

③クラスの外に出て練習するための語彙リストを作っておく。語彙リストは場所ごと（廊下、台所、事務室など）にまとめ、具体例に示すとおり作っておくとよい。

具体例

1．廊下（ろうか） ソファー（そふあー） 灰皿（はいざら） ⋮ 2．台所（だいどころ） ⋮	（中国語） ⋮

(3) 導入

①会話本文のテープを何回か聞かせてから、実物のテーブルやコップを指さして、「これは、日本語で何と言いますか」「それは、何と言いますか」などと、教授者が物をさしながら質問する。物の名前を知っているかどうかを確認するだけでなく、「これ・それ・あれ」の使い分けがどのくらい理解できているかを確かめる。

②その後、コップやテーブルの位置をかえたり、あるいは教授者自身が持って移動したりして「これ・それ・あれ」が、使い分けられるか確認する。

(4) 練習

①導入で、「これ・それ・あれ」がまだ分っていないときは、次のような練習から始める。

練習例１　Ａ：（自分の近くのものをさして）これは、何ですか。
　　Ｂ：それは、机です。
　　２　Ａ：（Ｂの近くにあるものをさして）それは、何ですか。
　　Ｂ：これは椅子です。
　　３　Ａ：（自分からも、Ｂからも離れているものをさして）あれは、何ですか。
　　Ｂ：あれは、時計です。

②「何ですか」のかわりに、「日本語で何と言いますか」「何と言いますか」で練習する。

③学習者の反応がよく、のみ込みが早いようなら、「これは、机ですか」「はい、机です」「いいえ、机では（じゃ）ありません」などの練習を入れてもよいが、「これは、何ですか」と「これは、机ですか」は疑問の形が異なる（疑問詞を使った疑問と、はい／いいえ　で答えさせる疑問）ので混乱させないように注意する。学習者の様子を見て無理はしない方がよい。

④〔２．会話練習〕を行い、余裕があればその後に「ありがとうございました」「いいえ、どういたしまして」を付けたり、また、「～ですか」の確認をしたりして、練習をふくらませる。

⑤クラスで、十分練習が済んだら、クラスの外に出て語彙を広げる。そのとき、準備しておいた中国語訳付きの語彙表を渡しておくとよい。

⑥「～てください」と頼むより、「あのう、ちょっと～てください」「すみません、ちょっと～てください」と質問する練習をする。「あのう、ちょっと～てください」がどうしても言えない学習者は、「あのう、すみません」の形だけでも確実に定着させる。

〔会話―５〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○すみません。もういちど　言ってください。(3) ○「か、い、も、の」　いいですか。(5)	○ああ、「かいもの」です。(2)
重要項目		○いいですよ。(6)

(2) 準備

漢字を書いたカードなどを用意する。日常生活で必要な語彙を用意するとよい。例：非常口、消火器、禁煙など。

(3) 導入

テープを聞いて、内容がどのくらい聞き取れるかを調べる。

(4) 練習

①テープに付いて繰り返させたり、教授者と学習者、あるいは学習者同士で、本文を練習してから、漢字のカードを使って、会話本文の言いかえ練習をする。

②この課のねらいは、日本人の発話が聞けないとき、聞き直す方法を練習することである。したがって、教授者は、スピードを早くしたり、発音の明瞭度を落としたりして発話をコントロールし、「すみません。もういちど、言ってください」と言わせる練習をする。さらに、余裕があれば、相手の言った言葉を反復して確認する練習が可能であり、これは〔会話―２〕を使って練習することもできる。

練習例　Ａ：電話番号は１２３の４５６７です。
Ｂ：すみません。もういちど言ってください。
Ａ：１２３の４５６７です。
Ｂ：１２３の４５６７ですか。
Ａ：はい、そうです。

3．文型・文法に関する参考事項

①「～てください」「～ができません」は、文法的な説明なしに教える。

②第3課は、主として事物指示を扱っているが、コ・ソ・ア系を含む言葉には次のようなものがある。

	(コ系)	(ソ系)	(ア系)	(ド系)	品　詞
事物	こ　れ	そ　れ	あ　れ	ど　れ	代名詞
場所	こ　こ	そ　こ	あそこ	ど　こ	
方角	こちら こっち	そちら そっち	あちら あっち	どちら どっち	
指定	こ　の	そ　の	あ　の	ど　の	連体詞
状態	こんな	そんな	あんな	どんな	形容動詞
	こ　う	そ　う	あ　の	ど　う	副　詞
				な　ん いくら	代名詞